

# 単語認知処理過程の基礎的検討

(指導教員 世木 秀明 助教授)

世木研究室 0010054 真田 優子

## 1.はじめに

私たちが新聞や本などを読む場合、そこに書かれている1文字、1文字を読んでその内容を理解しているのではなく、単語や文の文字列のひとつかたまりを一度に取り込み処理を行っていると考えられている。特に、ナナメ読みなどはその典型例であると考えられる。また、文章中に知らない単語や日常使わない表記で記述されているものがあつた場合、読む速度が遅くなつたり、何度も読み返すなどの作業を行う。このような「文章を読む」処理過程は、読み手が持つ心的辞書が大きく関与していると考えられるが明らかにはされていない。

本研究では、呈示された単語の表記方法や文字数の違いによってどのように文字認知の違いが現れるかについて視覚実験により検討を行い、心的辞書との関連性についても考察することを目的とした。

## 2.刺激材料

2文字から6文字で構成される誰でも知っている通常表記単語66個、これを基に作成した非通常表記単語68個および、非実在語142個を用意した。表1に用意した単語の一例を示す。

表1 実験に使用した単語の一例

	通常表記	非通常表記	非実在語
2文字	パン 火事	ぱん カジ	パン
3文字	ラジオ 津田沼	らじお ツダヌマ	ラオジ 津日沼
4文字	アイロン かまぼこ	あいろん カマボコ	アロイン かぼまこ

## 3.実験方法

用意した刺激材料をランダムに3回ずつ5Sec.ごとに250msec.だけ呈示するプログラムを作成し、これを用いて実験を行った。また、刺激呈示は、17インチ液晶ディスプレイ全画面表示、文字の大きさは150ポイント黄色、背景色は青とし、被験者までの距離は60cmとした。被験者の回答方法は、見えたとおりに実験者に口答で答えることとした。また、実験被験者は、視力が健康な20代男女12名であった。

## 4.実験結果と考察

通常表記単語、非通常表記単語および、非実在語を呈示した場合の正答率を図1に示す。

図1より、文字数2文字、3文字では、通常表記単語、非通常表記単語、非実在語の正答率に有意な差は見られないが、4文字以上になると通常表記単語、

非通常表記単語の正答率には有意な差は見られないが、非実在語の正答率は有意水準1%で有意に低下することが観測された。

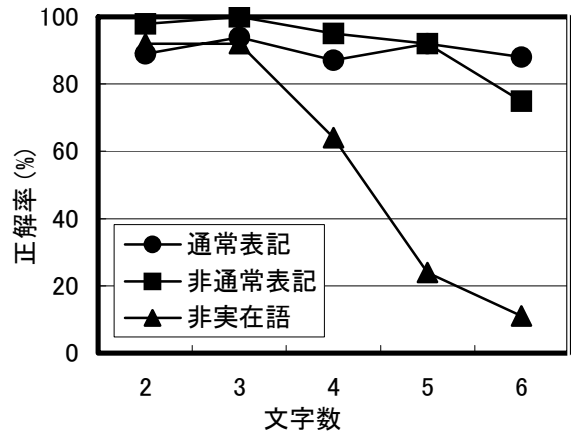


図1 通常表記単語、非通常表記単語、非実在単語の正答率

次に、非実在語の回答結果において、呈示単語と同一単語に回答した割合および、呈示単語に似通った実在語として回答した割合を求めると図2のようになった。図2に示すように5文字以上の場合には被験者のよく知っている単語に置き換えて答える傾向が強く見られた。この部分では、被験者の持つ知識や概念などの心的辞書の影響が大きく関与していると考えられる。

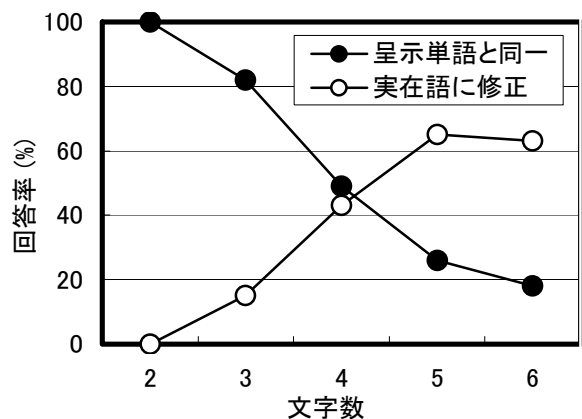


図2 非実在語の回答内訳

これらの結果から、知らない単語は4文字以上になると読みにくくなり、5文字以上になると文字認知に心的辞書が大きく関与することが示唆されていると考えられる。また、このことから、よく知っている単語でも4~5文字以上になると心的辞書を活用して単語認知を行っていることも予想される。